

2012（平成24）年度

事業報告書

自 2012（平成24）年4月 1日より

至 2013（平成25）年3月31日まで

学校法人 九州ルーテル学院

目次

1. 学校法人の概要	1 ページ
1.1 建学の精神	1 ページ
1.2 学院の沿革	1 ページ
1.3 設置する学校・学部・学科等	2 ページ
1.4 学生・生徒・園児の状況	3 ページ
1.5 役員の概要	4 ページ
1.6 評議員の概要	5 ページ
1.7 教職員の概要	6 ページ
1.8 組織図	8 ページ
2. 事業の概要	
2.1 大学・大学院	9 ページ
2.1.1 学生確保	
2.1.2 就職支援	
2.1.3 教育体制	
2.1.4 障害学生サポート	
2.1.5 宗教教育	
2.2 中学・高校	10 ページ
2.2.1 教育環境の整備	
2.2.2 教学内容<中学校>	
2.2.3 教学内容<高校>	
2.2.4 教学内容<中学・高校共通>	
2.2.5 企画事業	
2.3 幼稚園	14 ページ
2.3.1 園児の動向	
2.3.2 活動報告	
2.4 法人及び事務部門	15 ページ
2.4.1 事務部門全体	
2.4.1.1 サービス向上	
2.4.1.2 業務改善	
2.4.1.3 成長	
2.4.2 法人運営	
2.4.2.1 法人広報と寄付金募集	
2.4.2.2 人事労務	
2.4.2.3 施設・環境整備	
2.4.2.4 安全・防災	
2.5 宗教教育	16 ページ
2.5.1 学院の宗教活動	

2.5.2	大学における宗教活動	
2.5.3	中学・高校における宗教活動	
2.5.4	幼稚園における宗教活動	
2.6	入試結果・入園入学状況	17 ページ
2.7	卒業生数及び進学・就職状況	19 ページ
2.7.1	2012年度卒業・卒園数	
2.7.2	2012年度卒業生の進学・就職の状況	
2.7.2.1	中学校	
2.7.2.2	高等学校	
2.7.2.3	大学	
2.8	施設等の状況	21 ページ
2.9	年間行事	22 ページ
2.10	その他	24 ページ
2.10.1	当該年度の重要な契約	
2.10.2	係争事件の有無と経過	
2.10.3	決算日以降に生じた重要な事実	
3.	財務の概要	25 ページ
3.1	決算の概要	25 ページ
3.1.1	貸借対照表の概要	
3.1.2	資金収支計算書の概要	
3.1.3	消費収支計算書の概要	
3.2	経年比較	30 ページ
3.3	主な財務比率比較	31 ページ
3.3.1	貸借対照表関係比率	
3.3.2	収支計算書関係比率	
3.4	その他	35 ページ
3.4.1	有価証券の状況	
3.4.2	借入金の状況	
3.4.3	学校債の状況	
3.4.4	その他	
3.4.4.1	寄付金の状況	
3.4.4.2	収益事業の状況	
3.4.4.3	関連当事者との取引	
付録	学校会計について	36 ページ

1. 学校法人の概要

1.1 建学の精神

学院標語（学訓） 感恩奉仕

学院聖句 わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである。
(ヨハネによる福音書 10 章 10 節 b)



本学院の校章は、中心部は図案化されたバラの花が置かれ、バラを囲む三角で縁取りされている。三角の型は、キリスト教会には馴染み深いシンボル・三位一体の神に由来するものだが、学院では学校の人間育成・教育の課題である「知育・徳育・体育」を表すものとして扱ってきた。

中心部におかれたバラ模様はルター派教会のシンボルである。

「純粋」を表す白いバラ模様の中心には、ルター紋章では赤いハートに十字架を刻み、キリストの十字架の心が記されているが、学院紋章では「赤い丸」に単純化されている。それは単純化と云うよりは「キリストの十字架の血」に置きかえられたものである。その「一点」こそが、学院の原点であり、それは「霊育」という原点である。

「霊育」を原点とし、そこに支えられて「知育・徳育・体育」による人間形成が営まれる学府を「校章」は謳っている。そこから生まれる人間が「神の恩寵（恵）に感謝し、神と人に仕える」「感恩奉仕」に生きること目標を置くところに学院の使命と伝統がある。

1.2 学院の沿革

- | | |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1908 年 | 米国ペンシルベニア州のインマヌエル・ルーテル教会で、「日本に女子学校を作るために」5ドルが献金された。 |
| 1921 年 9 月 | 北米一致ルーテル教会婦人伝道局総会で、日本に女子学校建設を決議。 |
| 1922 年 | 日本のルーテル教会第 3 回総会で、女子学校設立を決議。 |
| 1923 年 1 月 | 米国婦人伝道局が 17 万 5 千ドルを目標に募金運動開始。2 年間で延べ 30 万人から 25 万 6182 ドルを募金。特に、オハイオ州のジェームズ夫妻は、日本への宣教師を夢みて 8 歳で夭折した娘ジャニスのために特別多額を寄付。新しくできる学校は、「Janice James School」と呼ばれることになった。 |
| 1925 年 12 月 | 私立学校認可申請を熊本県知事に提出、翌年 2 月認可。 |
| 1926 年 4 月 | 九州女学院開校。初代院長マーサ・B・エカード |
| 1928 年 10 月 3 日 | 専門学校入学者検定規定による文部大臣指定(この日が創立記念日) |

1931年2月	修業年限5箇年指定(高等女学校高等科入学資格)
1931年3月	第1回卒業式
1941年11月	九州女学院財団法人設立 校名は九州女学院高等女学校となる
1943年4月	四年制高等女学校となり校名を清水高等女学校と変更
1946年3月	同窓会「のいばら会」発足
1946年4月	五年制高等女学校へ復帰 校名は九州女学院高等女学校となる
1947年4月	九州女学院中学校(新制)を設置
1948年4月	九州女学院高等学校(新制)及び九州女学院幼稚園を設置
1975年1月	九州女学院短期大学設立認可[英語学科、児童教育学科]
1975年4月	短期大学開学
1996年12月	九州ルーテル学院大学[人文学部人文学科]設立認可
1997年4月	大学開学
1998年3月	短期大学閉学
2001年3月	野々島グラウンド落成
2001年4月	中学・高等学校を男女共学とし、ルーテル学院中学・高等学校と校名を変更。法人名を、九州女学院から九州ルーテル学院に改名
2001年7月	中学高校男子寮竣工
2002年10月	大学4号館竣工
2002年7月	菊南グラウンド落成
2004年4月	大学に[心理臨床学科]開設
2005年3月	学生自治会・部室棟(学生ホール)竣工
2006年4月	大学に大学院(修士課程)人文学研究科障害心理学専攻開設
2007年4月	大学人文学部人文学科にキャリア・イングリッシュ専攻とこども専攻を開設
2009年4月	大学が大学基準協会認証評価適合
2010年4月	大学に小学校教諭一種免許状の課程開設

1.3 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等	摘要
九州ルーテル学院大学	1997年4月	人文学部人文学科	
	2004年4月	人文学部心理臨床学科	
九州ルーテル学院大学・大学院	2006年4月	人文学研究科障害心理学専攻	
ルーテル学院高等学校	1948年4月		
ルーテル学院中学校	1947年4月		
ルーテル学院幼稚園	1948年4月		

1.4 学生・生徒・園児の状況

①在籍者数

2012年5月1日現在

単位:人

学 校	学 年	学 科	定員数	クラス数	園児・生徒・学生数		
					学科別計	合 計	
幼稚園	満3歳児		50	2	2	2	
	3歳児				44	44	
	4歳児		50	2	53	53	
	5歳児		50	2	49	49	
	計		150	6	148	148	
中学校	1年		80	2	67	67	
	2年		80	2	63	63	
	3年		80	2	63	63	
	計		240	6	193	193	
高等学校	1年		320	8	287	287	
	2年		320	9	314	314	
	3年		320	9	334	334	
	計		960	26	935	935	
大 学	1年	人文	保育	30	2	32	187
			児童教育	10	1	24	
			キャリア	35	2	44	
		心理臨床	75	4	87		
	2年	人文	こども	30	2	36	186
			児童教育	10	1	21	
			キャリア	35	2	43	
		心理臨床	75	4	86		
	3年	人文	こども	40	2	48	190
			キャリア	35	2	53	
		心理臨床	75	4	89		
	4年	人文	こども	40	2	45	177
			キャリア	35	2	48	
心理臨床		75	4	84			
長期履修学生	人文	内数(5)	-	3	17		
	心理臨床	内数(5)	-	14			
計			600	34	757	757	
科目等履修生、研究生			-	-	5	5	
大学院	1年	障害心理学専攻	5	-	4	11	
	2年	障害心理学専攻	5	-	7		
	計		10	-	11		
	研究生			-	0		

1.5 役員概要

職名又は 担当職務	フリガナ 氏 名	常勤・ 非常勤 の別	就任年月日	備 考
理事長	サカネ ノブヨシ 坂根 信義	非常勤	2002年6月24日	理事長就任 平成16年10月25日
理事	キヨシゲ ナオヒロ 清重 尚弘	常勤	2002年4月1日	院長・学長
理事	ハヤシダ ヒロフミ 林田 博文	常勤	2012年4月1日	中学高校長
理事	オダ アキコ 尾田 明子	常勤	1998年10月20日	幼稚園長
理事	ヤマグチ ハツコ 山口 初子	非常勤	2007年9月28日	熊本ライトハウス・のぞみホーム施設長
理事	ナガオカ リュウイチロウ 長岡 立一郎	非常勤	1998年10月20日	九州学院理事長
理事	オホ イクコ 於保 郁子	非常勤	2004年10月1日	めぐみ幼稚園前園長
理事	シオタニ ヨシコ 潮谷 義子	非常勤	2012年4月1日	日本社会事業大学理事長
理事	フルヤ シロウ 古屋 四朗	常勤	2008年4月1日	事務局長
理事	フクダ クニコ 福田 邦子	非常勤	1995年7月10日	のいばら会顧問 愛育会福田病院理事
理事	ハッタ サトコ 八田 智子	非常勤	2006年10月1日	のいばら会顧問
理事	ヨネザワ フサトモ 米澤 房朝	非常勤	2001年5月30日	ヨネザワ社長 清水学園理事長
理事	イチカワ カズヒロ 市川 一宏	非常勤	2004年10月1日	ルーテル学院大学長
理事	イシハラ ヤスナリ 石原 靖也	非常勤	2006年4月1日	東光石油会長
監事	カワサキ タカオ 河崎 隆夫	非常勤	2008年10月1日	日本福音ルーテル教会九州 教区事務所主事
監事	テラモト ユキヨシ 寺本 行義	非常勤	2008年10月1日	

1.6 評議員の概要

氏名	就任年月日	備考
坂根 信義	2002年6月24日	理事長
山口 初子	2007年9月28日	熊本ライトハウス・のぞみホーム施設長
長岡 立一郎	1998年10月20日	九州学院理事長
於保 郁子	2004年10月1日	めぐみ幼稚園前園長
潮谷 義子	2012年4月1日	日本社会事業大学理事長
清重 高弘	2002年4月1日	院長・学長
林田 博文	2012年4月1日	中学高校長
尾田 明子	1998年10月20日	幼稚園長
古屋 四朗	2008年4月1日	事務局長
濱田 信夫	2006年9月28日	大学教授
志水 龍星	2000年5月29日	大学事務長
大野 雅人	2012年10月1日	中高教諭
田仲 洋介	2012年10月1日	中高教諭
和田 成子	2001年1月17日	幼稚園教諭
福田 邦子	1995年7月10日	のいばら会顧問・愛育会福田病院理事
齋藤 禎子	2012年10月1日	のいばら会会長
八田 智子	2006年10月1日	のいばら会顧問
太田 雄三	2009年10月1日	結会会長
西井 辰朗	2006年10月1日	結会広報
宮本 るみ	2012年5月29日	大学保護者
江崎 貞利	2012年5月29日	中高PTA会長
今村 美由紀	2012年5月29日	幼稚園PTA会長
石原 靖也	2006年4月1日	東光石油社長
米澤 房朝	2001年5月30日	ヨネザワ社長・清水学園理事長
市川 一宏	2004年10月1日	ルーテル学院大学長
内村 公春	2002年5月29日	九州学院院長
春木 進	2004年9月28日	熊本日日新聞編集委員
梅元 昭宏	2004年9月28日	梅元税理士事務所所長
俵 恭子	2005年2月1日	

2012年9月30日まで任期

濱崎 庸一	2010年10月1日	中高教諭
西山 慎一郎	2008年9月24日	中高教諭
阿部 史子	2004年10月1日	前のいばら会会長

1.7 教職員の概要

教 職 員 組 織 <院長 清重尚弘>

2012 (平成 24) 年 5 月 1 日現在

幼稚園	<園長 尾田明子>	教職員数計 (幼稚園)	17 人	
	教諭			事務職員 1 人
	専任 5 人			嘱託 1 人
	臨採 2 人			非常勤 1 人
	非常勤 7 人			
	教員計 14 人			職員計 3 人
中学校	<校長 林田 博文>	教職員数計 (中学校)	27 人	
	教諭			事務職員
	専任 8 人			専任 1 人
	臨採 4 人			嘱託 1 人
	非常勤 5 人			非常勤 8 人
	教員計 17 人			職員計 10 人
高等学校	<校長 林田 博文>	教職員数計 (高等学校)	95 人	
	教諭			事務職員
	専任 50 人			専任 5 人
	専任 (J3) 3 人			臨採 1 人
	臨採 5 人			嘱託 5 人
	非常勤 16 人			非常勤 5 人
	教員計 74 人			寮監 5 人
				職員計 21 人
大学	<学長 清重 尚弘>	教職員数計 (大学)	138 人	
	教員			事務職員
	専任 36 人			専任 14 人
	兼任 78 人 (客員教授 3 名含む)			臨採 2 人
				非常勤 8 人
	教員計 114 人			職員計 24 人
大学院	<研究科長 佐藤 静一>	教職員数計 (大学院)	19 人	
	教員			
	兼任講師 9 人			
	兼担 10 人 (学部兼任 9 名含む)			
	教員計 19 人			

学院総務部	<事務局長 古屋 四朗>	教職員数計 (総務部)	10 人
			事務職員
			専任 7 人
			嘱託 1 人
			非常勤 2 人
			職員計 10 人

(注) 平均年齢は、専任教員 43.2 歳 (J3, 牧師含む)、専任職員は 44.3 歳である。

2. 事業の概要

2.1 大学・大学院

2.1.1 学生確保

今回の受験者数は 599 名。4 年制大学開学以来最多となった。入学者数は 198 名。定員を超えないよう慎重な歩留まり見通しを立てて合否判定を行ったが、結果的には定員超過。

リクルート成功の要因は

- 1) 高校訪問の強化策：教職員が手分けして各校数回の訪問を実施。高校へのアピールと同時に、教員の自己理解が深まる効果があった。
- 2) 資格取得課程の設置：小学校教員免許課程他の魅力。
- 3) 就職率好調：少数教育を活かした就職指導支援の成果。
- 4) 社会貢献（ボランティア活動参加他）による地域の認知度、評価の高まり

2.1.2 就職支援

90%を確保、ことに、こども専攻は 3 年連続 100%を達成。本学を会場に、身の丈に合った企業説明会を開くなどの工夫が効を奏している。

2.1.3 教育体制

教員人事が円滑に進み、各部門に優れた教員を確保できた。心理部門の一層の充実、教職課程の強化、キャリアイングリッシュのレベルアップが顕著である。また、県立高校の校長経験者のグループの存在が、本学の教育力向上に多大な貢献をなしている点は、本学の特色と言えよう。

2.1.4 障害学生サポート

昨年数か月をかけて関係者間の密度の濃い話し合いを重ねて、今年度に、重複障害の学生を受け入れた。センター長・河津教授を中心にサポートのシステムを作り、また、教職員の学習を重ねて来た。この委員会が学生ボランティアを募り、具体的なサポートを行う。

2.1.5 宗教教育

チャプレンを柱とするキリスト教教育は、充実の度を加えている。礼拝出席者数が平均 200 を超え、チャペル委員に 90 名を超える学生が参加、聖歌隊、ハンドベル演奏は、ジャクリン・ベンケ先生の指導で、良い成果を上げている。

2.2 中学・高校

2.2.1 教育環境の整備

○「美術棟」を設け、教室環境の改善と教室の確保ができた。

2.2.2 教学内容<中学校>

○自立した中学生の育成 ～行事の見直しと具体的な取り組み～

- ◆「体験学習」を中学3学年全体で実施 9月12日(水)～14日(金)の3日間
 - ・1年生：阿蘇山荘において「野外活動体験」。今年はハイキング・箸づくり・ピザ焼き体験などのプログラムを盛り込み活動的な内容となってきた。
また、ボランティアで社会人ティーチャー(保護者)を招いて、ピザ焼き体験と朝食の指導をお願いすることができた。
 - ・2年生：1人1事業所での「職場体験」を計画し実施できました。準備段階で困難なことも多くありましたが、保護者と教職員の協力により乗り越えることができました。「つまずきからの学び、ひとりでのチカラ」を経験させたい。体験学習後の子どもたちの成長に期待したい。
 - ・3年生は熊本ライトハウス(ルーテル社会福祉法人 慈愛園)で「福祉・ボランティア体験」を体験しました。生徒たちは、山口園長先生の「心はいろいろな心とのふれあいを通して育まれる」という言葉に深い感銘を受け、3日間で大きな成長のきっかけをいただき感謝いたします。今年度も計画中です。
を今年度から実施。
3年生：慈愛園熊本ライトハウスでの、福祉・ボランティア体験学習。初日、校内で山口先生の講義による事前学習。2・3日目は福祉・ボランティア体験学習。昨年からの取り組みで、充実した内容になってきた。PTAとのつながりもできた。

◆学級づくり・集団づくり・仲間づくり

- ・班活動・話し合い活動などを通して学級づくりをし、集団の中で個人・個性を認め合う仲間づくりに取り組み、いきいきとした生徒の育成に努めました。

◆合唱コンクールの開催

- ・「歌う中学」を具現化したプログラム。音楽科と中学部が一体となり取り組み、2回目を開催することができました。中学1・2年生が健闘した。
卒業式での合唱の充実にもつながったと考えています。今後の取り組みを期待したいと思います。

○一人ひとりの学力向上 ～確かな学力を身につける～

◆英語教育におけるセルハイプログラム中学版の実施

- ・中学独自のプログラムを現在作成中、報告できる段階まで進みつつある。

◆授業アシスト制度の定着と強化

- ・授業効率の向上と特別支援を要する生徒に対応しながら授業管理をすることができました。改善すべき点は、より効果的で、生徒の授業への主体的な取り組みを促すようにしたい。

- ◆「学びタイム」の実施
 - ・意欲的な生徒または学力不振の生徒に対して、毎週木曜日と考査前および長期休暇中に「学びタイム」を実施。自学自習形式で行い成果を上げつつあります。
- ◆進路部と連携して進学指導強化
 - ・中学部・中学3年生担任と進路部が連携して高校への進学指導が充実してきた。
- 中学校におけるキャリア教育 ～将来を見通した進路設計～
 - ◆「J1 野外活動体験、J2 職場体験、J3 福祉・ボランティア体験」の系統化
 - ・中学部の協力により、同時期に体験学習を組み込み、充実している。
 - ◆進路カウンセリング、進路ガイダンスなどの充実
 - ・二者面談および三者面談を通し、将来の進路設計を考えるきっかけになっている。

2.2.3 教学内容<高 校>

- 韓国新興高校との交流会
 - ・5月31日（木）高校2年250名の男子生徒との交流。ルーテル学院は全高校生で歓迎し、有意義なプログラム構成でよい交流会となった。
- 英語特進・理数特進コース
 - ・目標を達成できなかった原因を検証し、これからも生徒たちの希望進路を達成できるように努力していこうと考えています。
- ルーテル学院・九州学院・文徳の3校合同進学講座
 - ・8/2～3の2日間実施。（文徳が当番校）
 - ・今回で2回目、参加者は昨年度より30名程多い約110人。（県費補助事業）

2.2.4 教学内容<中学・高校共通>

- キリスト教教育の充実教育
 - ◆J3、高校3年修養会に参加（学年会提案）
 - ・高校3年修養会にJ3が参加し、プレゼンテーションとプログラムの企画・運営
 - ◆受洗者祝福会 2月28日（木）昼休み 校長室
 - ・中学生：常定望さん（中学2年生）
 - ・高校生：平川寧香さん（高校3年生 ICUに進学）
- 特別支援教育への取り組みの充実
 - ◆サポート委員会での取り組み
 - ・発達障害を含んだ特別支援教育の指導体制が組織的に取り組めるようになりました。熊本県私学サポート事業による人材派遣浦田さん（私学協会委託業務 人件費は県費補助）を受け、今後より効果的な指導プログラムになり、授業アシスト制度と連携することができました。
- 中学および高校各コースにおける定員100%充足
 - ◆定員の充足率
 - ・中学49名（61%）、高校372名（116%）の入学生を迎えました。次年度も教育内容を充実させ、募集活動に力を入れていきます。
 - ◆芸術コースについて
 - ・24名（音楽12名、美術12名）でした。美術棟が完成しましたので、芸術コースで

1 クラスを編成できるよう努力し、達成します。

- ◆美術展（芸術コース美術）の開催 12月18日～23日 崇城大学ギャラリー
・今年度から募集状況を充実させるため、美術展という形で取り組むことにした。

○中学募集対策 サマースクール・スクールキャラバンの充実

- ◆小学生の応募状況と活動の様子

・多くの小学生が応募していますが、これからも内容の充実を図りたいと思います。期間中、参加した小学生は積極的に活動し充実した毎日を送ることができました。十分に中学募集につながっています。

○国際交流プログラム

- ◆全州新興高等学校（韓国）との交流

・3月21日～25日（4泊5日）短期研修を実施し、高校1・2年生12名の生徒が参加。充実した研修となりました。（引率教師2名）

※のいばら会の支援事業として、春休みの時期（新興高校は新学期）に定着させていき、グローバル人材の育成を図りたい。引率教師（川津先生）も韓国の英語教育に興味・関心があり、教職員の研修・交流の機会にもしたい。

- ◆インマヌエル高校（オーストラリア アデレード）

・夏期休暇を利用した中規模の短期研修と生徒交流、九州学院との合同企画。
すばらしい研修になった。

○ボランティア活動

- ◆東日本大震災支援活動

ハンドベル部被災地慰問演奏 ※8/10 全国総文祭（富山市）に参加後、慰問

・8月12日（日）被災地慰問演奏 ※35名参加

演奏①：鶴ヶ谷教会（9時30分～12時00分）

演奏②：石巻大森仮説集合所（14時00分～16時30分）

※ハードな日程だったので生徒の疲労度は高かったが、貴重な体験となった。

演奏した2か所の教会から水害見舞金を頂き、感謝。全校集会で生徒代表が報告。

- ◆九州北部豪雨被災地ボランティア

・被災した生徒の家（3家庭4名）および教職員（1名）のボランティア参加。
田畑教頭を中心に組織を立ち上げ、クラブ生徒を中心にボランティア参加。
教職員による募金活動も実施。

○講演会の開催

- ◆キャリア講演会 7月9日（月）

・マリールイズさんが講演。演題「教育は平和と発展の鍵」

- ◆人権講演会 11月26日（月）

・吉田道雄先生（熊本大学教育学部教授）が講演。

演題「みんなで創る楽しい学校 ～あなたも大事、私も大事～」

○研修会の企画と受け入れ

- ◆熊本県立八代中学高校の視察研修 9月25日（火）

・衛藤繁・原田（国語）・米田（数学）・川津（英語）先生

視察研修、有意義なものとなった。教育現場での実践に活かしていきたい。

- ◆尚綱高校中堅教師一日研修の受け入れ 11月14日（水）

・3名の先生方を受け入れ、情報交換等を行い有意義な研修となった。

※研修のあり方を検討する機会にもなった。教職員からの希望があれば、他校を訪問する研修を計画したい。

○「自己育成シート【教諭・講師用】」による面談を実施 ※田畑教頭の発案

・前期と後期に教諭及び講師の面談を教頭、中学主事、校長、高校主事で実施し、教育の質的向上の手掛かりにした。今後も継続して教育力を高めたい。

2.2.5 企画事業

- テラバルT1フェスタ（フリーマーケット・T1クイズ）への参加 11月17日（土）
 - ・寺原自動車学校片桐社長のご厚意で、7名の生徒が参加。社会実習を体験した。売上収入金の6,640円は全額を募金と献金にあてた。
- 成人をともに祝う会 1月14日（月）13時 礼拝堂・学院食堂
 - ・当日の参加者：約80名（卒業生：約40名 関係者・教職員：約40名）
のいばら会のご支援とご協力で実現した今年度からの取り組み。
20歳を迎える卒業生代表が中心となり1回目の準備に取り掛かったが、よい準備ができなかった。特に、のいばら会の役員の方々と該当学年の保護者にはご迷惑をお掛けした。2回目は準備段階から充実させ、母校と同窓会とつながり、伝統的な会に発展させたい。

2.3 幼稚園

2.3.1 園児の動向

2012年度は4月当初園児数147名と定員割れでスタートし、年度末3月の時点では167名の在籍園児数でした。

2.3.2 活動報告

①キリスト教保育〔2011年にキリスト教保育指針改定〕を基盤とした幼稚園教育の実施。

②地域への開放として子育て支援（育児相談やこひつじの会など定期的な活動）や預かり保育（長期休業日も含め）が定着してきました。利用料金の見直しはせずに、次年度から現金の取り扱いからチケット購入制を行うこととしました。また近い将来認定こども園を検討課題に置き、認可外保育所の開園準備に着手しました。

③昨年の卒園児50名の中には、男児2名(気管切開)・女児1名(脳性まひ)が保護者の希望通り熊本市内の小学校(白川・楡木)へ入学しました。学校教育との連続性や発展性が明確になり、支援学校の検討課題は残りますが、幼稚園と小学校・幼稚園と家庭などとのつながりが重要視されてきたことを実感した年でした。

特別支援教育については、今後3年は看護師の必要性があると思われませんが、毎年支援の内容が異なるため、細かいコーディネートも必要と思われれます。

④認定こども園構想が明確になってくることが予想されるので、具体的な移行準備計画をすすめ、熊本市の計画などにも将来に向けての『新しい子ども園（幼稚園）』を念頭においた一年となりました。

2.4 法人及び事務部門

・2.4.1 事務部門全体

事務部門は『魅力ある学校を作る』をスローガンとし、サービス向上、業務改善、成長の3つの視点で、全体、部署および個人の目標を設定して進めました。

・2.4.1.1 サービス向上

事務部門は各自が何らかのサービスを担当しているので、それぞれに具体的な目標を掲げてその内容を高めることを目指して実践しました。

・2.4.1.2 業務改善

特に業務全体を通じて、情報の共有・活用・発信を進め、部署を超えた協力の促進を目指しました。各部署からの内部広報用メールマガジンに『総務の窓』が加わり、全職員研修での障がいを持つ生徒等に関する各学校の実態理解などに見るべきものがありました。

・2.4.1.3 成長

職員の人材育成には特に力を入れ、建学の精神に基づく高い志と、実質的な知識・能力を持った、自律的職員集団の形成をめざして、体系的に取り組んでいます。

階層別研修では、4法人と共同で「業務改善」の中堅職員研修を引続き開催しました。これは2013年度から大学コンソーシアム熊本の活動に位置付けて継続します。また通信教育「中堅社員実力養成コース」を3級昇格の必須研修としました。

非正規雇用入職者の専任登用制度を設け、2名が課題をすべてこなして登用されました。

・2.4.2 法人運営

・2.4.2.1 法人広報と寄付金募集

学校法人としてのホームページを制作しましたが、公開は新年度に持ち越しました。寄付金税額控除対象法人の証明を取得しました。

・2.4.2.2 人事労務

2010年から進めてきた就業規則の全面見直しをほぼ完了し、大部分を次年度5月の理事会に提案できる運びとなりました。

教職員の心の健康について、「心の健康作り計画」を積極的に推進しました。毎年実施している疲労蓄積度チェックリストに加え、他の企業等との比較もできる調査を行いました。ほぼ全員が定期健診を受けるなど心と体の健康管理について教職員の意識が高まりました。

・2.4.2.3 施設・環境整備

大学1・2号館の耐震改修及び冷暖房工事を行いました。大学チャペルにも懸案の冷房を入れました。ケヤキを剪定・伐採しました。構内の植栽維持が円滑になりました。

中高第二体育館を美術棟に改造して、美術専攻の収容力を増すとともに、中高の一般教室を増やすことができました。

・2.4.2.4 安全・防災

学院横断の防災検討タスクフォースによって学院の防災上の問題点を協議して、避難経路を明確化しました。正門の管理を㈱キューネットに委託し、24時間常駐化しました。

2.5 宗教教育

2.5.1 学院の宗教活動

キリスト教の建学精神に基づき、宗教活動・教育を行う中、本学は学校と教会が相互に協力できる働きを大変重視し、両方の連携を深めています。

例えば、県内各教派の牧師・司祭を招いたキャンパスミッション懇談会で、若者への伝道について繰り返して懇談し、教会からの様々な提案をいただきました。その提案を一つずつ検討しました。今は実施項目をチェックしながら実行しているのです。

その他、クリスマス関連行事、キリスト教学校同盟およびルーテル諸学校との交流も定着しています。

2.5.2 大学における宗教活動

大学では、教職員の宗教委員会と学生のチャペル委員会によって宗教活動を進めています。2012年度、宗教委員会のメンバーは9名、チャペル委員会のメンバーは、90名（学生総数の約12%）でした。活躍しています。

チャペル礼拝は月曜日から金曜日まで、毎朝10時17分からの15分間です。2012年度は147回の礼拝が持たれ、毎回の平均出席人数は120名（学生総数の16%、前年度より+0.9%）でした。皆勤者が14名、1～2回休みの精勤者が11名です。礼拝出席の原因を聞くと、礼拝が好き、礼拝が面白いという感想が多いのです。主な行事としては、阿蘇山荘清掃、サマーキャンプ及びクリスマス礼拝でした。

2.5.3 中学・高校における宗教活動

毎日の日課における朝の礼拝と終礼、季節ごとのキリスト教行事、聖書科の授業をとおして中高におけるキリスト教教育・活動が行われました。礼拝と終礼の充実を主な目標とした2012年度は、特に生徒たちの積極的な参加を促すいくつかの新しい試みが企画され実施されました。それぞれの新しい試みや提案が、礼拝の時間を日課的にも質的にもさらに整えるきっかけとなり、2013年度への活動につながっています。

2.5.4 幼稚園における宗教活動

園児は、日々の保育の中で教師が担当し、また週に1回黄チャプレンによる合同礼拝と保護者対象の聖書学びの会・教師の毎朝の礼拝を担当していただいています。

キリスト教行事を通して、園児のみならず保護者にも理解をしていただけるよう行事の折に参加を募ったり、説明に努めています。視聴覚などの教材を利用しながら、キリスト教の教えを分かりやすく教え、『祈る子ども』『他者に目を向けることができる子ども』をめざしています。

2.6 入試結果・入園入学状況（2013年4月入学者）

学校名	種別	志願者数	合格者数		入学(園)者数	
幼稚園	満3歳児				(5/1時点)	2
	3歳児					25
	4歳児					6
	5歳児					2
	計					35
中学 募集定員 80	専願	26	奨学生 A	2	奨学生 A	2
			奨学生 B	7	奨学生 B	7
			奨学生 C		奨学生 C	
			専願生	17	専願生	17
	奨学前期・後期	45	奨学生 A	2	奨学生 A	1
			奨学生 B	9	奨学生 B	5
			奨学生 C	33	奨学生 C	12
	一般	13	奨学生 A		奨学生 A	
			奨学生 B		奨学生 B	
			一般生	10	一般生	5
計	84		80		49	
高校 募集定員 320	専願	173	奨学生 A	5	奨学生 A	5
			奨学生 B	12	奨学生 B	12
			奨学生 C	16	奨学生 C	16
			専願生	111	専願生	111
	奨学	494	奨学生 S	0	奨学生 S	0
			奨学生 A	30	奨学生 A	6
			奨学生 B	90	奨学生 B	10
			奨学生 C	292	奨学生 C	76
			奨学生 D	63	奨学生 D	21
	一般	246	奨学生 A	1	奨学生 A	1
			奨学生 B	4	奨学生 B	0
			奨学生 C	0	奨学生 C	0
			一般生	207	一般生	68
	ルーテル中学	46	奨学生 A		奨学生 A	
奨学生 B				奨学生 B		
奨学生 C				奨学生 C		
認定生			46	専願生	46	
計	959		877		372	
大学	指定校推薦	26	26		26	
	公募推薦	12	3		3	

(人文学科) キャリアイングリ ッシュ専攻 募集定員 35名	授業料全額免除推薦	2	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	2	2	2
	一般Ⅰ期	54	12	6
	一般Ⅱ期	19	3	2
	センター利用	22	7	1
	編入学	1	1	1
	長期履修学生(編入学)	0	0	0
	計	138	54	41
大学 (人文学科) こども専攻 保育コース 募集定員 30名	指定校推薦	14	14	14
	公募推薦	22	5	5
	授業料全額免除推薦	6	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	43	16	13
	一般Ⅱ期	11	2	1
	センター利用	14	3	0
	計	110	40	33
大学 (人文学科) こども専攻 児童教育コース 募集定員 10名	指定校推薦	1	1	1
	公募推薦	10	3	3
	授業料全額免除推薦	2	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	0	0	0
	一般Ⅰ期	83	18	14
	一般Ⅱ期	26	2	2
	センター利用	26	4	1
	計	148	28	21
大学 (心理臨床 学科) 募集定員 75名	指定校推薦	30	30	30
	公募推薦	36	19	19
	授業料全額免除推薦	1	0	0
	帰国学生及び私費外国人留学生	1	0	0
	一般Ⅰ期	84	45	41
	一般Ⅱ期	24	4	2
	センター利用	23	23	7
	編入学	2	2	2
	長期履修学生(一般入学)	0	0	0
	長期履修学生(編入学)	2	2	2
計	203	125	103	
定員 150	大学合計	599	247	198
大学院 人文学 研究科 (障害心理学専 攻)	一般選抜	3	2	2
	社会人選抜	3	3	3
	計	6	5	5

※ 第2、第3希望の合格者を含む

2.7 卒業生数及び進学・就職状況（2013年3月卒業生）

【2013年5月1日現在】

2.7.1 2012年度卒業・卒園数 (人)

ルーテル学院幼稚園	50
ルーテル学院中学校	63
ルーテル学院高等学校	332
九州ルーテル学院大学	173
九州ルーテル学院大学・大学院	6

2.7.2 2012年度卒業生の進学・就職の状況

2.7.2.1 中学校 (人)

ルーテル学院高等学校	46
その他	17
合 計	63

2.7.2.2 高等学校

進学 (合格者延人数) (人)

大学	国公立	11
	私立	187
	九州ルーテル学院大学	25
準大		0
短期大学	国公立	1
	私立	23
高等看護学校		19
その他の専門学校		99
合 計		365

就職 (人)

産業別就職者	公務員	9
	サービス業	6
合 計		15

都道府県別就職者	熊本県	12
	県外	3

2.7.2.3 大学

第13期生 一般企業（希望者94人、決定者85人）

卸・小売業	27
医療福祉	26
金融・保険業	7
サービス業	4
教育・学習支援業	4
不動産業	4
運輸業	4
製造業	3
情報通信業	3
飲食店・宿泊業	1
その他	2
合 計	85

第13期生 保育士・幼稚園教諭・施設保育士（希望者31人、決定者31人）

保育士	14
幼稚園教諭	13
施設保育士	4
合 計	31

【その他】

熊本市保育士	1
菊陽町保育士	1
南小国町保育士	1
福岡県警察	1
教員（臨時採用）	10
大学院、専門学校	7
合 計	21

2.8 施設等の状況

1. 主な施設設備の状況は以下のとおりです。

所在地	施設等	面積等	利用
熊本市中央区黒髪 3丁目 269 番地 他 (黒髪キャンパス)	校地	46,320.06 m ²	大学、中高、幼稚園
	校舎 15 棟(学院会館、学生自治会棟含む)	21212.5 m ²	同上
	体育館 1 棟	1925.88 m ²	中高
	部室棟 2 棟	395.28 m ²	同上
	寮 2 棟	4157.11 m ²	同上
	その他	82.88 m ²	守衛室、トイレ棟
熊本市北区鶴羽田竹ノ下他 (菊南グラウンド)	校地	48,823 m ²	大学、中高 (野球部)
合志市野々島中野 (野々島グラウンド)	校地	19,099 m ²	中高 (サッカー部)
	クラブハウス	228.8 m ²	同上
	部室棟他	85.31 m ²	同上
阿蘇郡南阿蘇村河陽 (阿蘇山荘)	校地	37,059 m ²	総務部で管理
	研修所	719.66 m ²	同上

校地合計：151,300.74 m²

校舎面積合計：28,807.42 m²

2. 2012年度に実施した工事

1) 大学1号館耐震改修及び外壁塗装工事、大学1,2号館暖冷房機入替工事

工事期間は、2012年5月1日から9月30日にかけて実施された。改修費用は、115,345,250円。施工は九州建設株式会社。耐震工事により安全性の向上、塗装工事により1号館外観のイメージアップ、冷暖房機入替により生活環境面での大幅な向上が得られた。

2) 中高第2体育館を美術棟へ改修

新入生の増加に伴い、3号館の美術関連教室を一般教室(ホームルーム)に変更し、利用度の低かった第2体育館を美術専用棟に改修。高校1年生の1クラス増加に対応することができた。第2体育館を利用していた授業、クラブは大学の協力により、授業の空き時間に大学体育館を使用する。

3. 2013年度に計画されている工事

1) 高校本館東・西ウイング耐震改修工事

東西ウイングにおいて、耐震壁を設置し、安全な教育環境とする。

2) 女子寮(学院寮)改修工事

女子寮において、耐震壁を設置し、窓サッシ、廊下の床タイルの入替、トイレおよび風呂の改修を行うことによって生活環境を良くする。

2.9 年間行事

(2012年4月～2013年3月)

	大学	中学・高等学校
4月	<ul style="list-style-type: none"> 入学式、1年次生保護者会 新学期オリエンテーション フレッシュマンキャンプ(新入生歓迎オリエンテーション) 	<ul style="list-style-type: none"> 男女入寮式 入学式 始業式
5月	<ul style="list-style-type: none"> 新入生歓迎スポーツデー こどもフェスティバル 空調機入替え、耐震改修工事(9月下旬まで) 	<ul style="list-style-type: none"> 体育大会 PTA総会、懇談会、懇親会 中学1年生修養会
6月	<ul style="list-style-type: none"> 平澤大学・仁徳大学日本語研修 大学院説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 高校3年生修養会 前期中間考査
7月	<ul style="list-style-type: none"> 前期補講 兼 定期試験 第1回オープンキャンパス 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除、全校集会 高校第1回オープンキャンパス 中学第1回入試説明会 中学サマースクール
8月	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許更新講習 第2回オープンキャンパス 長期履修学生入学試験 保育コース合宿 オープンカレッジ(5回シリーズ)～10月まで 公開講座(英語5回シリーズ) 	<ul style="list-style-type: none"> 私学教育一斉研修 大掃除、全校集会 スクールキャラバン
9月	<ul style="list-style-type: none"> サマーキャンプ 秋季卒業式・入学式 大学院入学試験 キリスト教学校教育同盟事務職員部会研修会 第3回オープンキャンパス 	<ul style="list-style-type: none"> ミッションクリーン 高校第2回オープンキャンパス 前期期末考査
10月	<ul style="list-style-type: none"> 2年次生保護者会 ペプラー 	<ul style="list-style-type: none"> 後期始業の辞 学院祭 中学第2回入試説明会
11月	<ul style="list-style-type: none"> 指定校推薦入学試験 授業料全額免除、公募推薦入学試験 ホームカミングデー フィリア祭 第4回オープンキャンパス 	<ul style="list-style-type: none"> 高校第3回オープンキャンパス 強歩会 後期中間考査
12月	<ul style="list-style-type: none"> プレ・カレッジ(入学前教育) クリスマス礼拝 クリスマス祝会 	<ul style="list-style-type: none"> 中学2年生研修旅行 大掃除、全校集会 クリスマス礼拝、キャロリング、早天礼拝 中学入試(専願・奨学前期)
1月	<ul style="list-style-type: none"> 大学入試センター試験 後期補講 兼 定期試験 	<ul style="list-style-type: none"> 大掃除、全校集会 中学入試(一般・奨学後期) 高校入試(専願・奨学、実技「体育・芸術」) 熊本バンド早天祈禱会
2月	<ul style="list-style-type: none"> 一般Ⅰ期、編入学試験、外国人入学試験 大学入試センター利用入学試験 修士論文発表会 	<ul style="list-style-type: none"> 高校2年生研修旅行 中学入学者登校日 高校入試(一般) 後期期末考査
3月	<ul style="list-style-type: none"> 一般Ⅱ期、長期履修学生入学試験 卒業式、Farewell Party 兼任講師懇談会 合格者召集日 おもちゃコンサルタント講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 高校卒業式 大掃除、全校集会 中学卒業式 高校入学者登校日

	幼稚園	学院全体
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新学期始園式 ・一日入園 ・入園式 ・入園感謝親子礼拝 ・お見知り遠足 	<ul style="list-style-type: none"> ・辞令交付式 ・新任教職員オリエンテーション ・学院歓迎会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・母の日礼拝 	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇山荘学院・教会合同清掃 ・決算会計監査 ・理事会・評議員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> 保育参観 花の日礼拝 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・お泊り保育 ・1学期終園式 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休暇預かり保育 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期始園式 ・祖父母お祝い会 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会・評議員会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会 ・収穫感謝礼拝 ・バザー(保護者会主催) 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立記念日 学院研修会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度入園児願書受付 ・芋ほり遠足 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームカミングデー ・クリスマスイルミネーション点灯式
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期終園式 ・クリスマス礼拝 ・年長組家族礼拝 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会・評議員会 ・半期決算会計監査 ・教職員クリスマス礼拝
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期始園式 ・もちつき ・年中組家族礼拝 	<ul style="list-style-type: none"> ・新年礼拝
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観(だご汁) ・観劇会 ・もも・年少組家族礼拝 	
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園感謝礼拝(室園教会) ・卒園式 ・終園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・理事会・評議員会

2.10 その他

2.10.1 当該年度の重要な契約

特にありません。

2.10.2 係争事件の有無と経過

2013年1月に労働審判の事案が発生しましたが、同年4月25日に双方が審判を受け入れて解決しました。

2.10.3 決算日以降に生じた重要な事実

特にありません。

3. 財務の概要

3.1 決算の概要

3.1.1 貸借対照表の概要

(単位・千円)

科 目		2012 年度末	2011 年度末	増 減
資産の部	固定資産	4,468,679	4,400,090	68,589
	有形固定資産	4,257,053	4,191,025	66,027
	土地	1,448,693	1,448,693	0
	建物	2,118,506	2,109,865	8,640
	その他有形固定資産	689,854	632,467	57,387
	その他の固定資産	211,626	209,065	2,562
	流動資産	638,954	525,744	113,210
	現金預金	531,477	373,907	157,570
	その他流動資産	107,477	151,837	△ 44,359
資産の部合計		5,107,633	4,925,833	181,799
負債の部	固定負債	807,941	775,773	32,168
	長期借入金	564,740	561,590	3,150
	その他固定負債	243,201	214,183	29,018
	流動負債	211,889	182,972	28,917
	短期借入金	54,350	54,850	△ 500
	その他流動負債	157,539	128,122	29,417
負債の部合計		1,019,830	958,745	61,085
基本金の部	第1号基本金	5,643,001	5,584,464	58,538
	第4号基本金	129,000	129,000	0
基本金の部合計		5,772,001	5,713,464	58,538
繰越消費収支差額の部		△ 1,684,198	△ 1,746,375	62,177
負債の部、基本金の部、及び繰越消費収支差額の部 合計		5,107,633	4,925,833	181,799

前年度末に比べて、資産が182百万円の増加、負債が61百万円の増加、基本金が59百万円の増加、繰越消費収支差額が62百万円の減少となりました。

資金収支は、資金収支は、借入金60百万と資産運用支出5百万を除いても103百万

の黒字でした。60百万を借り入れた一方で、57百万を返済し、借入金が増えました。185百万の設備投資、57百万の借入金返済をした上でなお、運用資産が116百万増えたので、全体は順調と言えます。

3.1.2 資金収支計算書の概要

(単位:千円)

収入の部	2011年度決算	2012年度予算	2012年度決算	前年比
納付金収入	1,224,557	1,220,962	1,220,132	△ 4,424
手数料収入	35,034	35,651	33,945	△ 1,089
寄付金収入	21,355	15,260	17,306	△ 4,049
補助金収入	442,106	448,012	481,534	39,428
資産運用収入	3,574	3,423	4,105	530
資産売却収入	0	0	320	320
事業収入	62,446	64,140	66,719	4,273
雑収入	103,048	37,542	39,068	△ 63,980
借入金等収入	0	60,000	60,000	60,000
前受金収入	94,067	88,750	99,057	4,990
その他の収入	482,789	530,236	571,915	89,127
資金収入調整勘定	△ 229,866	△ 164,567	△ 186,448	43,418
前年度繰越支払資金	403,918	373,907	373,907	△ 30,011
収入の部 合計	2,643,028	2,713,316	2,781,560	138,532
支出の部				
人件費支出	1,234,134	1,170,025	1,160,123	△ 74,011
教育研究経費支出	268,168	295,895	292,410	24,243
管理経費支出	153,067	156,075	160,129	7,062
借入金等利息支出	11,953	11,636	11,548	△ 404
借入金返済支出	70,350	57,350	57,350	△ 13,000
施設関係支出	58,463	110,840	95,135	36,672
設備関係支出	34,587	88,903	89,949	55,362
資産運用支出	3,011	3,001	4,993	1,982
その他の支出	468,120	455,470	464,402	△ 3,719
資金支出調整勘定	△ 32,733	△ 71,972	△ 85,956	△ 53,223
次年度繰越支払資金	373,907	426,092	531,477	157,570
支出の部 合計	2,643,028	2,713,316	2,781,560	138,532

2011年に4件の借入れが完了し、2012年度は返済額が少なくなりました。人件費支出と雑収入が大幅に減少したのは、2011年度は定年退職者が多く、退職金の支払いと、退職金積立団体からの交付金が多かった反動です。

3.1.3 消費収支計算書の概要

(単位:千円)

帰属収入の部	2011年度決算	2012年度予算	2012年度決算	前年比
学生生徒等納付金	1,224,557	1,220,962	1,220,132	△ 4,424
手数料	35,034	35,651	6,049	△ 28,985
寄付金	23,803	19,826	15,295	△ 8,507
補助金	442,106	448,012	373,303	△ 68,803
資産運用収入	3,574	3,423	3,632	58
事業収入	62,446	64,140	592	△ 61,854
雑収入	74,854	15,358	17,471	△ 57,383
帰属収入合計	1,866,374	1,807,372	1,845,947	△ 20,428
基本金組入額	△ 161,099	△ 201,173	△ 58,538	102,561
消費収入の部合計	1,705,275	1,606,199	1,787,409	82,133
消費支出の部				
人件費	1,198,684	1,157,025	1,137,576	△ 61,108
教育研究経費	378,565	399,695	46,450	△ 332,115
管理経費	163,020	166,316	170,204	7,184
借入金等利息	11,953	11,636	11,548	△ 404
資産処分差額	0	0	407	407
その他の支出	1,267	10,250	△ 58	△ 1,325
消費支出の部合計	1,753,489	1,744,922	1,725,232	△ 28,257
帰属収支差額	112,885	62,450	120,714	7,829
大学	63,601	39,420	42,370	△ 21,231
高校	47,373	25,179	56,465	9,092
中学校	19,932	18,076	27,651	7,719
幼稚園	3,752	2,060	8,979	5,228
消費収支差額	△ 48,214	△ 138,722	62,177	110,390

2012年度の消費収支は、前年度に対して、帰属収入が20百万円減の1,846百万円、消費支出が28百万円減の1,725百万円、帰属収支差額は8百万円増の121

百万円となりました。減価償却額は123百万円でした。

以下に示すように、変動の大きな要因は一過性のものです。

【主要な収支改善要因】

- 国庫補助金増加： 大学の経常費補助金は5百万減りましたが、耐震工事補助と教育設備活性化補助金で20百万増加しました。
- 県補助金増加： 中高幼稚園の補助金が、生徒数減にも関わらず25百万増加しました。
- 一過性の改善： 2011年度は高校サッカー全国大会関係支出や大学教員退職金がありました。2012年度はそれらの支出が減少しました。

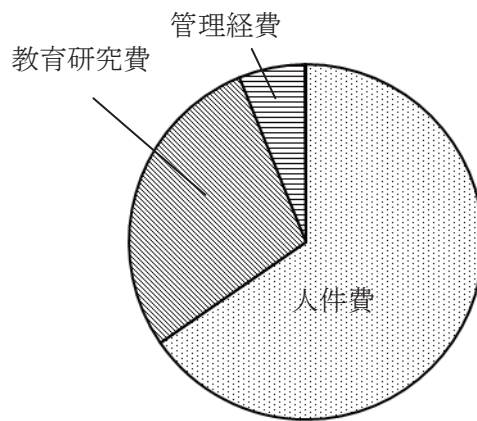
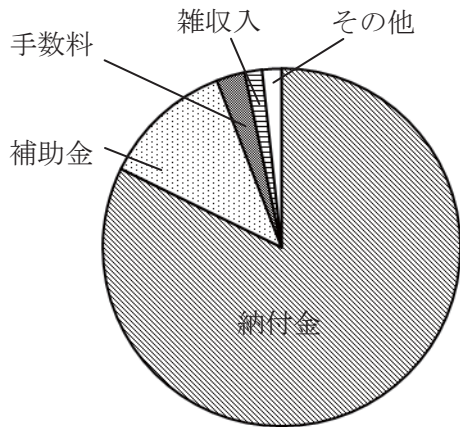
【主要な収支悪化要因】

- 納付金収入減少： 高校の生徒数減の影響が響きました。
- 大学修繕費の増加： 耐震改修等工事に伴う既存部分の解体撤去や外壁塗装費用。

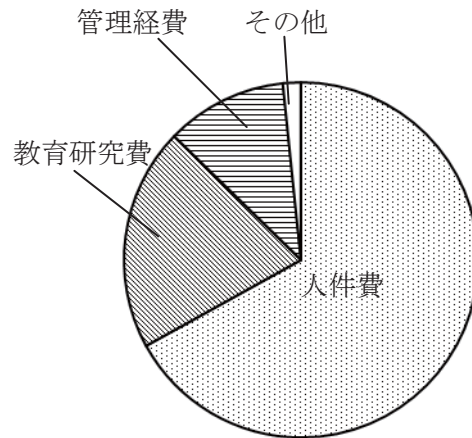
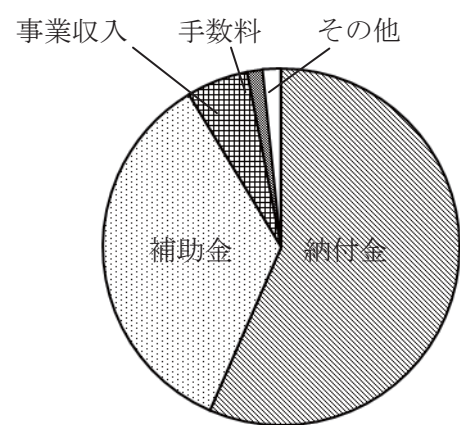
機関別の収支の内訳は、次ページのグラフのとおりです。

なおグラフにおいて、中学・高校と幼稚園の収入の内訳について注意が必要です。高校には就学支援金、幼稚園には就園奨励費という制度があります。いずれも保護者の納付金負担を軽減するのが目的ですが、高校の就学支援金は生徒への給付とされているので、このグラフでは納付金に含まれています。幼稚園の就園奨励費は、保護者の納付金負担を軽減した幼稚園に対する給付とされているので、補助金に含まれています。

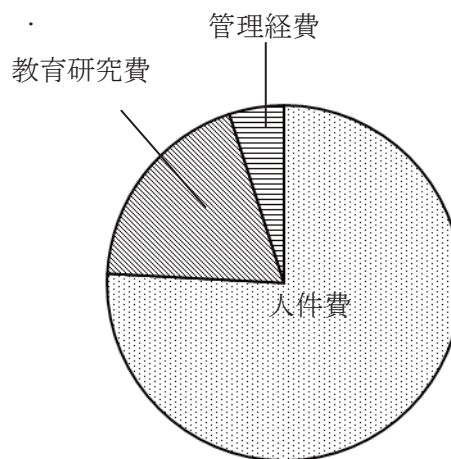
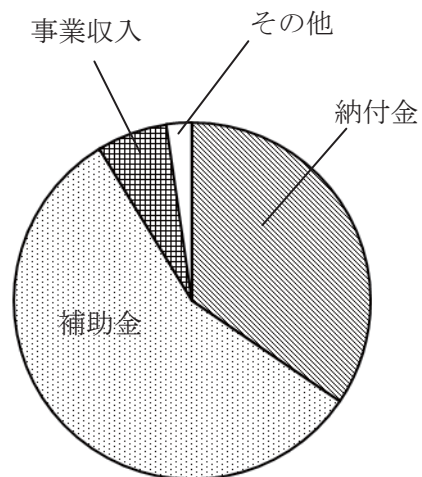
【大学の消費収支の構成】



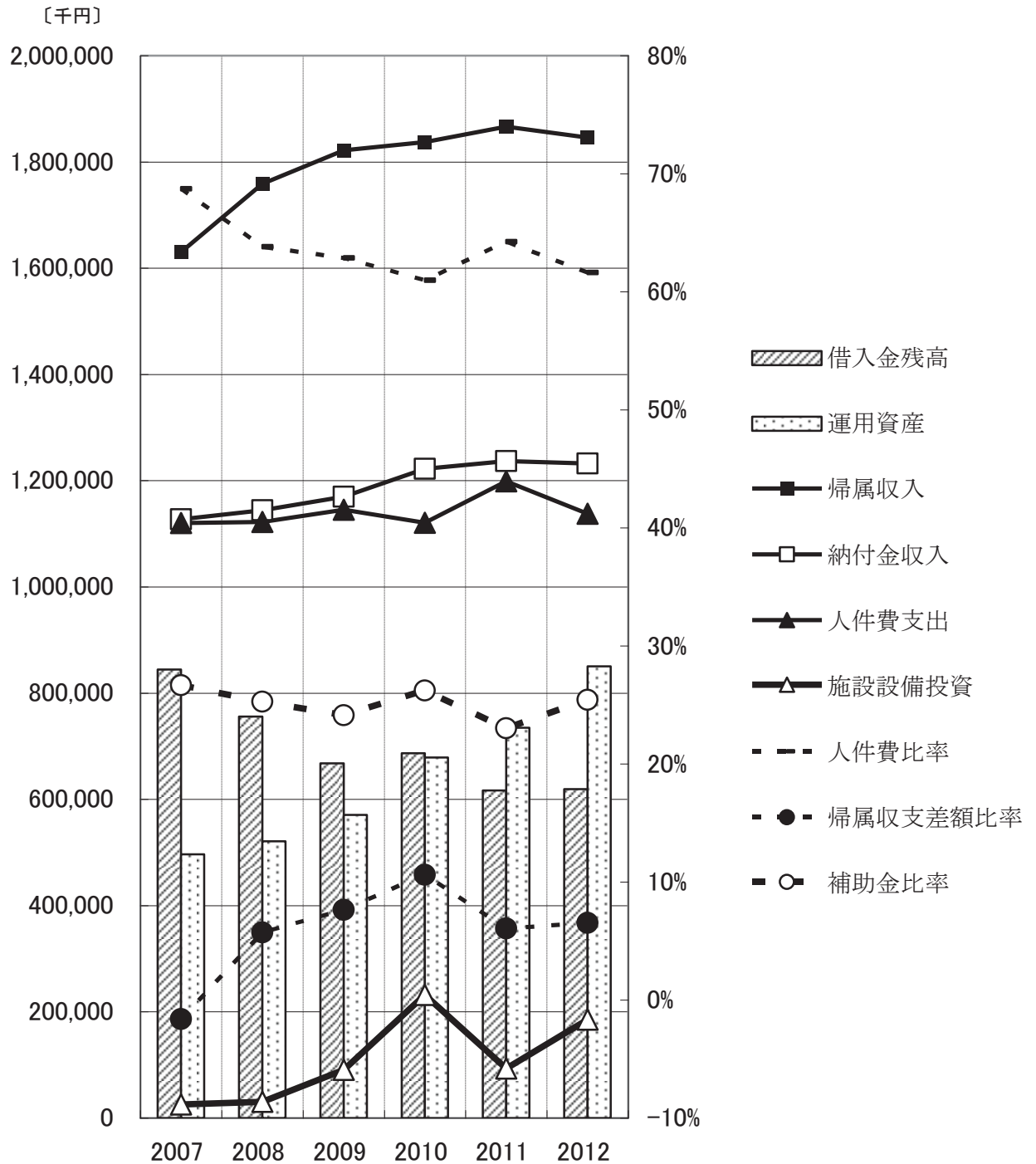
【中学・高校の消費収支の構成】



【幼稚園の消費収支の構成】



3.2 経年比較



帰属収支差額は、2008年度から5年連続1億円を超えました。これにより、毎年大きな工事をしつつ、借入金の返済と運用資産の強化を進めることができました。

3.3 主な財務比率比較

3.3.1 貸借対照表関係比率

※「良い」欄：△高いほど良い。▼低いほど良い。

観点	比率名	算式	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	同系統	良い	本学院の傾向
自己資金は充実しているか	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資産}}$	76.2%	78.3%	78.7%	80.5%	80.0%	82.1%	△	昨年比低下だが、年々充実してほぼ同系統なみ。
	消費収支差額構成比率	$\frac{\text{消費収支差額}}{\text{総資産}}$	△38.5%	△37.2%	△34.7%	△35.5%	△33.0%	△7.4%	△	昨年比改善だが、まだマイナスが大さい。
固定資産は長期資金でまかなわれているか	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	119.2%	115.3%	114.7%	110.9%	109.3%	96.2%	▼	6年連続改善しているが、分母の自己資金がまだ小さい。
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金} + \text{固定負債}}$	95.2%	94.4%	94.3%	92.8%	91.3%	86.2%	▼	6年連続改善しているが、分母の自己資金がまだ小さい。
資産構成はどうか	有形固定資産構成比率	$\frac{\text{有形固定資産}}{\text{総資産}}$	88.7%	87.8%	86.1%	85.1%	83.3%	63.0%	▼	5年連続改善しているが、換金性のない校地・校舎・図書等の資産割合がまだ高い。
負債に備える資産が蓄積されているか	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	198.5%	221.0%	230.8%	287.3%	301.6%	248.6%	△	5年連続改善し、短期負債に対する返済余力は問題ない。
	前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	402.7%	366.9%	428.5%	397.5%	536.5%	294.0%	△	年度による変化が大さいが、年度末手元資金は十分である。
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職金引当資産}}{\text{退職給与引当金}}$	19.1%	21.0%	26.7%	29.2%	30.8%	65.1%	△	今後毎年3百万円ずつ積増して改善中である。

(つづき)

観点	比率名	算式	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	同系統	良い	本学院の傾向
負債の割合はどうか	固定負債構成比率	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資産}}$	19.2%	17.3%	17.1%	15.7%	15.8%	9.4%	▼	確実に返済しつつあるも、長期にわたって償還すべき負債がまだ多い。
	流動負債構成比率	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総資産}}$	4.6%	4.4%	4.2%	3.7%	4.1%	8.5%	▼	流動負債は低く、問題ない。
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	23.8%	21.7%	21.3%	19.5%	20.0%	17.9%	▼	同系統なみになるまですべてである。
	負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{自己資金}}$	31.2%	27.7%	27.0%	24.2%	24.9%	21.8%	▼	他人資金は自己資金を上回っていない。

※『同系統』とは、人文科学系単科大学を持つ大学法人22法人の2012年度の平均値（私学事業団まとめ）

3.3.2 収支計算書関係比率

観点	比率名	算式		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	同系統	良い	本院の傾向	
経営状況はどうか	帰属収支差額比率	帰属収支差額 帰属収入	全体	5.7%	7.6%	10.6%	6.0%	6.5%	△7.6%	△	昨年度改善。2008年度から5年連続して収支差額1億円を突破できた。	
			大学	8.8%	9.8%	8.8%	7.8%	5.5%	6.2%			
			中高	4.5%	7.1%	14.2%	6.9%	8.5%	△2.0%			
			幼稚園	18.4%	15.8%	7.8%	5.0%	10.8%	1.8%			
収入の構成はどうなっているか	学生生徒等納付金比率	学生生徒納付金 帰属収入	全体	64.5%	63.6%	65.9%	65.6%	66.1%	72.7%	△	各学校とも学生生徒数を確保できており安定している。	
			大学	74.2%	74.5%	80.3%	78.0%	82.2%	75.0%			
			中高	58.2%	56.8%	57.4%	57.8%	56.5%	54.8%			
	寄付金比率	寄付金 帰属収入	全体	0.8%	2.1%	0.7%	1.3%	0.8%	0.8%	3.6%	△	同系統より低く、10年間ほとんど比率が変わっていない。
			大学	1.0%	1.0%	0.7%	0.8%	0.8%	4.1%			
			中高	0.5%	3.1%	0.6%	1.6%	1.0%	1.5%			
	補助金比率	補助金 帰属収入	全体	25.8%	24.7%	26.8%	23.7%	20.2%	12.3%	△	中高の経常費補助金が予想以上に多く、大学の経常費補助金減少を補うことができた。	
			大学	14.1%	12.5%	12.8%	9.5%	11.9%	10.2%			
			中高	33.8%	32.6%	35.3%	33.0%	34.8%	34.3%			
支出の構成は適切であるか	人件費比率	人件費 帰属収入	全体	63.8%	62.9%	61.0%	64.2%	61.6%	53.0%	▼	比率は収入増で改善してきたが、人件費総額は上昇傾向である。	
			大学	61.5%	62.7%	61.5%	64.6%	61.8%	54.8%			
			中高	65.8%	62.7%	59.7%	63.1%	61.2%	68.0%			
幼稚園	62.5%	66.1%	71.9%	74.2%	67.6%	65.7%						

(つづき)

観点	比率名	算式		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	同系統	良い	本学院の傾向
	教育研究経費比率	教育研究経費 帰属収入	全体	20.2%	20.0%	19.4%	20.3%	22.0%	26.7%	△	2年連続改善。学校法人の使命達成と発展に不可欠である。
			大学	22.4%	21.9%	23.1%	21.9%	27.0%	27.7%		
			中高	18.6%	18.9%	16.8%	19.2%	18.6%	26.3%		
			幼稚園	16.3%	15.1%	17.6%	17.5%	17.1%	31.1%		
	管理経費比率	管理経費 帰属収入	全体	9.3%	8.5%	8.2%	8.7%	9.2%	13.0%	▼	2年連続悪化。
			大学	7.1%	5.4%	6.4%	5.6%	5.7%	9.5%		
			中高	9.4%	9.6%	8.0%	9.4%	10.1%	5.1%		
			幼稚園	2.8%	3.0%	2.6%	3.3%	4.4%	-7.6%		

※『同系統』とは、次のカテゴリの2012年度の平均値（私学事業団まとめ）

全体 人文科学系単科大学を持つ大学法人 22法人

大学 人文科学系単科大学 25大学

中高 大学法人に属する生徒数600～1200人の高校 224校

幼稚園 大学法人に属する幼稚園 315園（幼稚園のデータだけは2011年度）

3.4 その他

3.4.1 有価証券の状況

区分	銘柄	帳簿価額	表示科目
債券	三菱東京UFJ銀行劣後債	1000万円	退職給与引当特定資産
株式	キリスト新聞社	5万円	有価証券

3.4.2 借入金の状況

借入先	借入残高	利率	担保等
公的金融機関	6664万円	1.8%	あり
市中銀行・信用金庫	5億5245万円	0.985～2.2%	あり

3.4.3 学校債の状況

学校債は、発行しておりません。

3.4.4 その他

3.4.4.1 寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額	摘要
新入生寄付金	保護者	231万円	減価償却引当預金へ
一般寄付金	保護者、団体、教職員等	1369万円	教育整備引当預金へ
特別寄付金	教職員	24万円	
	ムラサキスポーツ,教職員	100万円	ムラサキスポーツ奨学金へ
	熊本市	7万円	サッカー全国大会出場奨励
現物寄付金	熊本トホット㈱	7万円	花苗
	ベンケ・ジャックリン	21万円	ハンドベル・同ケース
	赤星宣利氏ご遺族	436万円	絵画6点

全体で2194万円の寄付金をいただきました。その内訳は表のとおりです。新入生寄付金は、中学、高校及び大学の新入生保護者に寄付をお願いし、多くのご協力を頂くことができました。寄付者の皆様には、心から感謝申し上げます。

3.4.4.2 収益事業の状況

収益事業は、行っておりません。

3.4.4.3 関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりです。

法人等の名称	資本金等	取引内容	取引金額	摘要
(株)アドコム	6000万円	広告・印刷	14.7万円	理事・米澤房朝が議決権の過半数を保有

財務の概要・付録 学校会計について

本学院の会計は、「学校法人会計基準」に基づき、以下の三種類の計算書類を作成しております。これらについて、本学院の仕訳方法を踏まえてご説明致します。

資金収支計算書 とは・・・

毎会計年度、当該会計年度の、学院の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容、並びに、当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入、及び支出のてん末を明らかにするものです。企業会計で言うキャッシュフロー計算書に相当します。

主な科目の内容は、以下の通りです。

- 【学生生徒納付金収入】 授業料収入、入学金収入、施設費収入等の納付金
- 【手数料収入】 入学検定料収入、中高の進路模試の試験料、大学の各種検定試験料、在学・卒業等の証明手数料等
- 【寄付金収入】 寄付者が使途を指定する特別寄付金と、指定しない一般寄付金。
- 【補助金収入】 経常費、施設整備等の全ての補助金。
- 【資産運用収入】 受取利息収入と、学内施設や阿蘇山荘利用等の施設設備利用料収入。
- 【事業収入】 中高の寮活動、及び幼稚園のスクールバス利用等を計上する補助活動収入や、大学で行う公開講座収入、韓国提携大学の学生を受け入れる受託事業収入等。
- 【雑収入】 退職金団体交付金収入や、大学のボランティア体験の体験学習収入、大学科研費の間接経費収入等。
- 【前受金収入】 前年度の3月までに受け入れた収入で、当年度になって入学金や施設充実費に振替えられる、資金収支計算書特有の科目です。
- 【その他の収入】 預り金受入収入や仮払金回収収入など、短期的に精算される収入で、雑収入と違い、消費収支計算書に影響しません。
- 【資金収入調整勘定】 収入として計上したが未収となっている期末未収入金や、前受金として前年度までに受け入れた収入を、当年度に本来の科目に計上した前期末前受金等を調整する科目で、マイナス表示します。
- 【教育研究経費支出及び管理経費支出】 経費支出は、教育研究に用いるものとそれ以外に分けています。
- 【施設関係支出】 土地支出、建物支出、構築物支出、建設仮勘定支出、施設利用権。
- 【設備関係支出】 教育研究用機器備品やその他の機器備品、図書、車両等。
- 【資産運用支出】 特定預金や特定資産への繰入支出や有価証券購入支出等。
- 【その他の支出】 資産に計上する支出で、前払金支払支出や仮払金支払支出、また、負債の支払いとして前期末未払金支払支出や預り金支払支出等。
- 【資金支出調整勘定】 支出として計上したが未払いとなる期末未払金や、前年度までに支払っている経費を当年度に本来の科目に計上した前期末前払金等を調整する為の科目で、マイナス表示されます。

消費収支計算書 とは・・・

当該年度における学院の諸活動の計画を、消費収入及び消費支出の内容と収支の均衡状態とを明らかにし、財務状況が健全であるかどうかを計算・表示するもので、企業会計の損益計算書に相当しますが、「基本金組入れ」を表示する点が異なります。

具体的には、「帰属収入」（借入金のような学院の負債とならない学生生徒納付金、補助金、寄付金等）から「基本金組入額」を差引き（この金額を「消費収入」と言います）、人件費や経費等の「消費支出」との均衡状況を示します。科目の多くは「資金収支計算書」と同じです。

消費収支計算書だけにみられる主な科目は以下の通りです。

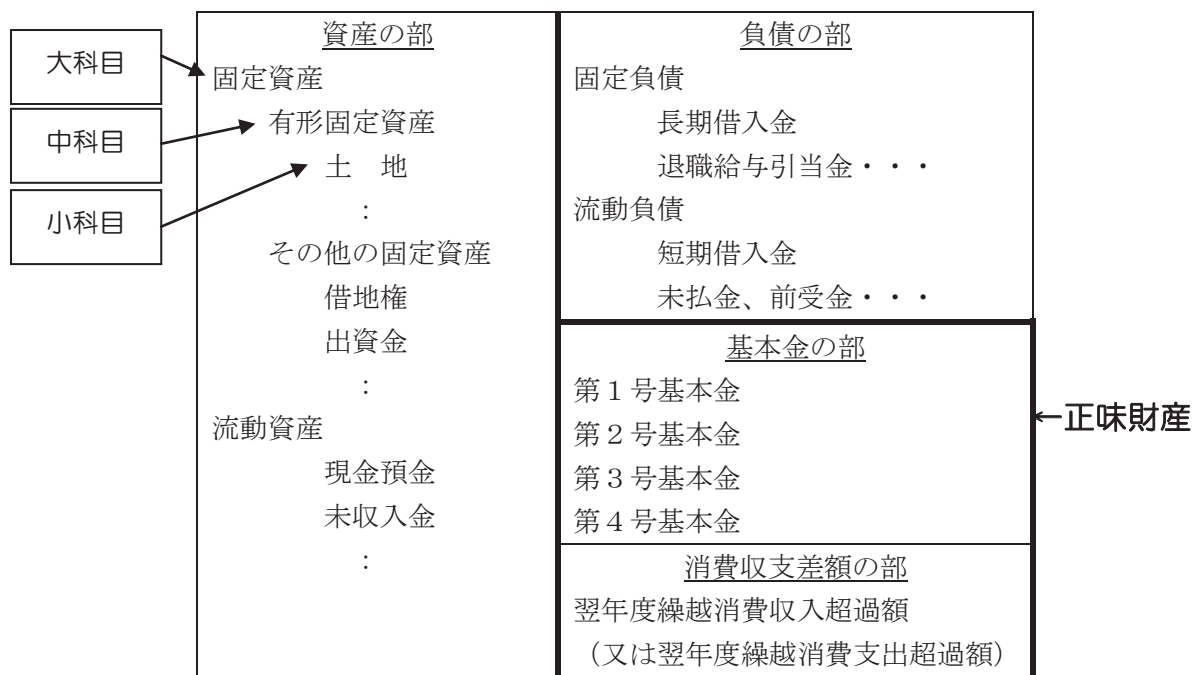
- 【現物寄付金】 資金の受入れがないので消費収支上にしか反映されません。今期、学院関係者より、花苗、ハンドベル及び絵画をご寄贈戴きました。学院関連の団体よりプロジェクター及びピアノの寄贈を受けました。
- 【退職給与引当金繰入額】 実際の退職金支払いに先立って、予め毎年度に負担額を消費支出として計上することが、消費収支の均衡を維持するうえで必要とされるものです。具体的な計算方法は、大学の場合、期末要支給額を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と、交付金の累計額との組入調整額を加減した金額を全額計上。大学以外の教職員に係る退職給与引当金については、期末要支給額から、(社)熊本県私学教育振興会よりの交付金相当額を控除した金額を全額計上。
- 【減価償却額】 固定資産のうち建物・構築物・機器備品などは、時の経過により価値が減少するものとして減価償却を行い、取得原価を毎年度の消費支出に費用配分しています。学校法人会計基準では、全て定額償却です。
- 【資産処分差額】 不動産などを売却し、その代価が帳簿残高を下回った場合、その差額を計上。また建物・構築物などの取壊しや、使用不能になった機器備品を除却処分した場合、処分時点の帳簿残高を計上。
- 【基本金組入額】 学校法人が諸活動の計画に基づき、教育研究の維持・充実に必要な校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金などの資産を継続的に保持するための金額であり、帰属収入から組入れた金額で、下表のように第1号基本金から第4号基本金までがあります。

第1号基本金	施設（土地、建物等）・設備（機器備品、図書等）の取得額、及びその取得のために借り入れた資金の返済額を組入額として計上
第2号基本金	計画に基づき先行組み入れた金銭等の額
第3号基本金	周年記念奨学基金等として継続的に保持・運用するために組み入れた金銭等の額
第4号基本金	必要な運転資金を常時保持するため、恒常的に保持すべき資金として基本金に組み入れる額

※基本金と資本金：「基本金」とは、企業会計の資本金とは異なり、学校法人会計独自の計算構造で、学校法人がその諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために帰属収入から組み入れた金額です。

貸借対照表 とは・・・

会計年度末における学校法人の財政状態（ストック）を表したものです。基本金と消費収支差額の合計額が、学院の正味財産で、企業会計の資本の部に相当します。従って、「資産＝負債＋基本金＋消費収支差額」となります。



- 【固定資産】 耐用年数が2年以上の有形固定資産（土地・施設・設備・図書等）と、保有期間が1年を超えると見込まれる有価証券、債権などの資産のこと。
- 【流動資産】 現金預金・未収入金・前払金・仮払金等。
- 【固定負債】 長期借入金・退職給与引当金等。「退職給与引当金」は、教職員に将来退職金として支払うべき退職金を、負債として認識するもの。中高・幼稚園と大学とでは引当金の計算方法が違っている為、それぞれに計算して計上しています。
- 【流動負債】 短期借入金・未払金・前受金・預り金・仮受金等。